

規制委

柏崎刈羽が「適合」

福島事故の検証ないまま

原子力規制委員会は27日、東京電力柏崎刈羽原発6、7号機（新潟県）が新規制基準に適合したとする審査書を決定しました。規制委が「合格」を出した原発は、7原発14基となりました。事故を起こした福島第1原発と同じ沸騰水型としても東電としても初めての判断。事故を起こした東電に原発の事業者としての



「適合性」を認めて再稼働を容認する判断に、会合の傍聴者からは「適合性なし」「審査をやり直せ」などの声が上がりました。

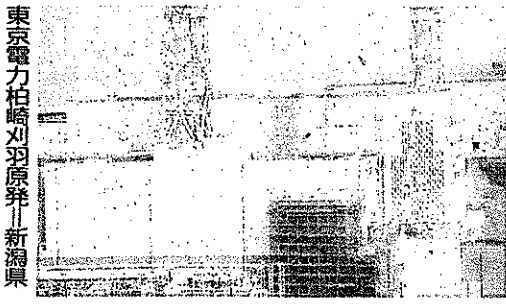
再稼働には地元同意が必要。しかし、新潟県の米山隆一知事は同日の会見で「福島第1原発事故の検証がなされない限り、再稼働の議論は始められない」と強調し、従来の姿勢を堅持しました。

規制委は、10月5日から審査書案について30日間の意見募集を実施。904件の意見が寄せられ、半数近くが、東電の「適合性」の問題で、「隠ぺい体質の東電に電力事業は任せられない」「精神論で技術的能力を判断していることに納得できない」「適合性に被災者賠償の項目も設けるべきだ」などの意見がありました。

規制委は、東電から「安全性をおろそかにしない」とする文書が提出され、所管する経済産業相からも、その文書方針などに「異論がない」との回答を得たとして、適合性を容認しました。

規制委の更田豊志委員長は会見で、東電の文書を運転手順などを定めた保安規定に位置づけたとしても、東電の取り組みを評価できるかには「限界がある」と認めました。

↓関連⑥面



東京電力柏崎刈羽原発―新潟県

柏崎刈羽原発「合格」

東電に「適格性」ない

新潟大学名誉教授で
新潟県技術委員会委員

立石雅昭さん

東京電力は検査データ
改ざんなどさまざまなト
ラブルを起こし、国民
・
県民を欺いてきました。



今年も柏崎刈羽原発の審
査でも虚偽の説明をして
いたことが発覚しまし
た。そうした東電の体質
が改まったという確証が
あるでしょうか。

原子力規制委員会は今
回、原発を運転する「適
格性」を評価する際、東
電幹部から聴取したと
か、「経済性を優先する
考えはない」などという
決意を示した文書、職員
の聞き取りだけで、「適

格性」を認めたことに納
得がいきません。

東電はトラブルのたび
に再発防止策を発表して
きました。にもかかわらず、
虚偽・隠ぺいを繰り返
返しています。組織的な
問題まで踏み込む必要が
あるのに、今回の審査に
そうした具体的な内容が
なかったのは問題です。

また、私たち（柏崎刈
羽原発活断層問題研究
会）は、敷地直下の断層

について活断層を否定
する東電の評価は根拠
がないとする独自の調
査結果を発表していま
す。今回の意見公募に
対する規制委の考え方
に私たちへの反論もあ
りますが、断層のでき
方などを議論せずにこ
れまでと同じ見解を示
しているにすぎませ
ん。

いずれにしても国民
・
県民を欺いてきた東
電への不信はぬぐえて
おらず、県民にとって
規制委の今回の判断は
受け入れがたいと言わ
ざるを得ません。